

## 《履修上の留意事項》遠隔授業のみ実施

受講生は教科書を持参して講義に臨むこと。  
初回の講義時にオリエンテーションを行うので履修者は必ず受講すること。

《担当者名》岩瀬義昭

### 【概 要】

ディプロマ・ポリシー3に記載されている「作業療法士として必要な科学的知識や技術」を習得するための基盤科目である。作業療法で実施する評価の基本的な考えや目的、さまざまな評価方法を理解する。また、作業療法における共通の評価法を知り、以後の各評価学および評価学実習履修のための基盤を作る。

### 【学習目標】

各講義テーマと教科書の該当する章に記載されている一般（教育）目標（GIO）と行動目標（SBO）を適用する。よって受講生は教科書を持参して講義に臨むこと。

### 【学習内容】

| 回 | テーマ           | 授業内容および学習課題                                      | 担当者  |
|---|---------------|--------------------------------------------------|------|
| 1 | 作業療法と評価       | 評価の目的と意義、評価の時期、評価項目、評価の手順と手段、評価実施上の留意点           | 岩瀬義昭 |
| 2 | 作業療法と再評価、効果判定 | 評価のまとめと問題点の抽出、効果と成果、作業療法効果研究の現状                  | 岩瀬義昭 |
| 3 | 記録・報告の意義と特徴   | 治療計画立案（治療目標の設定・治療計画立案）<br>記録、報告<br>国際生活機能分類（ICF） | 岩瀬義昭 |
| 4 | 領域共通の評価法1     | 面接、観察                                            | 岩瀬義昭 |
| 5 | 領域共通の評価法2     | [心身機能・身体の構造]                                     | 岩瀬義昭 |
| 6 | 領域共通の評価法3     | [活動]日常生活活動、[参加]就労、興味、役割                          | 岩瀬義昭 |
| 7 | 領域共通の評価法4     | [QOL評価]                                          | 岩瀬義昭 |
| 8 | まとめ           | 作業療法評価のまとめ                                       | 岩瀬義昭 |

### 【評価方法】

講義中の質問量（10%）  
口頭試問への応答の明瞭度（20%）  
行動目標の処理（10%）  
定期試験（オンライン）（60%）  
口頭試問は教科書の記載内容に基づいて講義中に行う。定期試験は行動目標、修得チェックリストに基づいて8回の講義終了後に行う。解答用紙は希望者に返却するので、教科書の該当部分を復習すること。

### 【備 考】

教科書：必携のこと  
能登真一 他 編 「作業療法評価学 第3版」 医学書院 2017年

参考書：日本作業療法士協会 「作業療法学全書 改訂第3版 第3巻作業療法評価法」 協同医書出版社 2009年  
障害者福祉研究会 「ICF 国際生活機能分類—国際障害分類改定版」 中央法規出版 2002年  
厚生労働省大臣官房統計情報編 「ICF-CY 国際生活機能分類-小児・青少年に特有の心身機能・構造、活動等を含む-」 厚生統計協会 2010年  
上田敏 「ICF(国際生活機能分類)の理解と活用-人が「生きること」「生きることの困難(障害)」をどうとらえるか」 きょうされん 2005年

### 【学習の準備】

1. 口頭試問に備え、次回の授業範囲を事前に予習すること（80分）。
2. 予習は、キーワードや修得チェックリストを中心に行い講義に臨むこと（80分）。
3. 復習は教科書の行動目標が可能となるように自己学習すること（160分）。

**【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】**

（DP3）作業療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

**【実務経験】**

岩瀬義昭（作業療法士）

**【実務経験を活かした教育内容】**

医療機関での臨床経験を活かして講義を行う。